

はじめに

京都産業大学グローバル人材育成推進事業は、文部科学省グローバル人材育成推進事業に採択されたことを契機として平成24年10月に始動した。

本事業は、理系3学部と外国語学部が連携して行うものである。本事業の特徴は、優れた能力・資質を有しながら、その資質を十分に活かし切れていない学生に対し、学生の学力・ニーズに応じた多様な学習機会・経験を提供することで、チャレンジ精神を植えつけ「理系産業人」へと育成するプログラムにある。

本報告書の執筆を行う平成26年度末においては、事業開始より2年半を経過し、丁度半期が経過したところである。本事業の主要な教育プログラムである、グローバル・サイエンス・コース/イングリッシュ・キャリア専攻も、今年度(平成26年度)10月からスタートし、実績を見ながら事業を運用できる段階へと移行した。一方、教育プログラムを支える教学体制の構築の取組みは、大方の領域において、平成24年度に望んだ枠組みを実現しつつある。

本文書では、平成26年度時点の本事業の取組状況を報告する。本事業のメインパートである「理系産業人育成」に係る教育プログラムの成果については、第2章に記述し、教育プログラムを支える教学体制の構築については、第3章から第7章にて記述する。

ここでは、本報告書の執筆にあたって、本学の成り立ちと、「グローバル社会で活躍する理系産業人育成プログラム」との関係の概略と、本プログラムの最も大きな特徴の一つである理系3学部と外国語学部との連携について紹介する。

京都産業大学の成り立ち

京都産業大学(以下、本学)が掲げる「建学の精神」は次のとおりである。

いかなる国家社会においても、大学は最高の研究・教育の機関である。大学の使命は、将来の社会を担って立つ人材の育成にある。

その教育の目標は、高い人格をもち、人倫の道をふみはずすことなく、社会的義務を立派に果たし得る人をつくることであり、しかもその職域が国内であろうと海外であろうと、その如何を問わず、全世界の人々から尊敬される日本人として、全人類の平和と幸福のために寄与する精神をもった人間を育成することである。

このような人間は、日本古来の美しい道徳的伝統を精神的基盤とし、東西両洋の豊かな文化教養を身につけ、絶えず変動する国内情勢に関して十分な知識をもち、その科学的分析によって正しい情勢判断のできる能力を備え、如何なる時局に当面しても、常に独自の見解を堅持し自己の信念を貫き得る人間である。

かかる学生の育成が、本学の建学の精神である。

引用元：本学ホームページ <http://www.kyoto-su.ac.jp/outline/kihon/kengaku.html>

本学は開学当初(1965年)から理学部を持ち、その後、1989年に工学部を開設し、さら

に工学部の発展的な改組により、2008年にコンピュータ理工学部を、2010年に総合生命科学部をそれぞれ開設した。理系学部では、科学を探究する営みを現実社会と結びつける能力を涵養すること、言い換えれば、産業（むすびわざ）の追求を行っている。現在の京都産業大学は、これら理系3学部、文系5学部（経済学部、経営学部、法学部、文化学部、外国語学部）を加えた計8学部を擁している。

理系3学部と外国語学部をむすぶ「グローバル社会で活躍する理系産業人育成プログラム」

ヒト、モノ、コトが高速で飛び交う現代社会において、従来の社会制度の枠組みでは対応できない問題、たとえば国や地域の単位での取組の集積だけでは対応できない問題、そして、緊急性の高い問題、たとえば今日明日に必要とされる物質的資源の確保にかかる問題、が山積してきている。二酸化炭素の産出や排出、食料やエネルギーの生産や確保といった環境・経済・資源の問題はその典型であろう。これらの課題の解決には、人文・社会科学分野と自然科学分野を横断する広がりを持ち、かつ深く専門的である知識・技術が共有されることを前提とした、全世界規模かつ多国間による連携した取組が必要とされている。この時代状況の中で、理系かつグローバル社会で活躍することのできる人材、すなわち「グローバル社会で活躍する理系産業人を育成する」ことは、大学をはじめとする高等教育機関の社会的ミッションである。そして本学にとって「グローバル社会で活躍する理系産業人を育成する」ことは、本学の一拠点総合大学としての特色を生かし、「建学の精神」を具現化するための、本学が取組むべき・本学だからこそ実現可能な一大ミッションである。

本学は平成24年度文部科学省補助事業「グローバル人材育成推進事業」に採択されたことを受けて、平成24年10月に京都産業大学グローバル人材育成推進事業（以下、本事業）を始動させた。そして平成26年度からは、理系3学部と外国語学部が共同で取組む「グローバル社会で活躍する理系産業人育成プログラム」（教育プログラム名：グローバル・サイエンス・コース、以下GSCと略す）を開設した。本事業では、「チャレンジ精神と主体性」「専門性」「対話能力」「アイデンティティ」の4つの理念（後述）に基づいた能力を獲得する教育プログラム（GSC）を理系3学部と外国語学部の連携により展開し、「グローバル社会で活躍する理系産業人」になる資質をもった卒業生を輩出する。より具体的には、GSCのような理系3学部と外国語学部の一部の学生集団を対象とした教育プログラムを開設・展開するとともに、全学的・抜本的な教学改革を立案・推進することで、在籍する全ての学生の学びをよりよく、より豊かにする。

本報告書は、平成26年度の本事業の取組み内容、成果ならびに課題を報告するものである。

理系3学部と外国語学部が連携してサポート

本事業では一拠点総合大学の利点を最大限に活かし、「科学的マインド」を追求する理系3学部と、語学習得を追求する外国語学部との連携による教育プログラムを構築・展開することに特徴がある。理系3学部はGSC、外国語学部はイングリッシュ・キャリア専攻（以下、ECC）を開設し、本事業の中核的取組みとする。各学部では従前からある専門科目群を体系的

に履修することで高い「専門性」を身につけ、理系特別英語（科学の専門分野で英語での情報発信の能力を高め論理的な思考を学ぶ）、英語サマーキャンプ（合宿形式で理系学部と外国語学部の学生が交流する）などのプログラムを通して、「対話能力」を高め「アイデンティティ」を確かなものにする。そして国内外インターンシップや PBL（Project-based Learning）型授業を拡充することによる「チャレンジ精神と主体性」の涵養促進、および学内奨学金制度の新設や充実による留学支援を推進する。

